

# ＝ 普 及 情 報 ＝

No. 1

平成29年4月17日

東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標 題

関係機関がGAP、美味しまね認証制度について学ぶ！

～まずは関係者の目合わせから～

(ダイジェスト)

出雲市では昨年度からGAPの推進を図っており、このほどJAしまね出雲地区本部とJAしまね斐川地区本部の2会場で、JA営農関係職員と出雲市役所農林関係職員を対象にGAPと美味しまね認証についての研修会を開催し、これらに対する情報の共有化を図りました。

出雲市では、昨年度から2020オリパラを契機にGAPを本格的に推進することにしており、この3月にはJAしまね出雲地区本部において職員6名（営農部と5つの営農センターに1名ずつ）に「GAP推進リーダー」の職名が付与されました。また斐川地区本部では斐川町再生協の委員（生産者）からGAPを推進すべきという声上がるなど、関係機関、生産者共にその機運が高まってきています。

そこで今回、JA両地区本部それぞれの企画により、GAPを推進・指導する立場にあるJA営農関係職員と市役所農林関係職員を対象としたGAPの基礎的な知識と美味しまね認証制度を学ぶ研修会を開催することになり、4月10日にはJAしまね斐川地区本部で同本部営農関係職員と市役所農林関係職員の約30名を対象に、4月15日にはJAしまね出雲地区本部で同本部営農関係職員の約60名を対象に行われました。

研修会では農業普及部職員が講師を務め、「出雲でGAPをどう進めるか？」と題して、“そもそも安全・安心とは何か”から始まり、GAPの必要性、具体的な手順等について学び、その後2020オリパラの食材調達基準をクリアしている「美味しまね認証制度」についてもその概要を学びました。特に出雲会場では各生産部会での取り組みを視野に入れ、既に取得されている「JAしまねエコネジ研究会県認証グループ」の事例を参考に、美味しまね認証の団体認証について意見交換が行われました。

今回の研修会を通して、出雲市の農林関係者のGAPや美味しまね認証に対する認識はある程度統一されたと思われ、今後の推進に向け弾みがついたと感じられました。

農業普及部では関係者と連携し、たとえば個別大型法人における作業者の安全の視点から、またはエコファーマーにおける更なる環境への配慮という視点から、農業者の経営実態に合わせたGAPの推進を図ることにしており、早速今月28日には平田柿部会の総会後にGAPに関する研修が計画されています。



研修会の風景（斐川会場）